

## 武蔵野の森総合スポーツ施設の整備促進に関する決議

東京都においては、調布基地跡地利用計画に基づき平成7年に策定し、その後財政事情等により凍結されていた「武蔵野の森総合スポーツ施設建設基本計画」いわゆる「5館構想」について、本年5月に開催された「調布基地跡地関連事業推進協議会（通称「四者協」）」において、平成25年の東京国体の実施に向け、計画を見直し、新たな基本構想を策定し、施設の整備を進めることを提案した。

三鷹市、府中市、調布市の地元3市も、この提案を了承し、長年の懸案事項の解決に向け大きく動き出した。

四者協での合意を踏まえ、東京都では、味の素スタジアム西側の都営地に計画されている5つのスポーツ施設の整備計画を見直し、国体に必要な補助競技場（サブトラック）の設置を含めた新たなスポーツ施設の整備構想として「武蔵野の森総合スポーツ施設基本構想」の策定に向け検討を進めている。

石原東京都知事も今年9月の東京都議会の所信表明において、多摩地域のスポーツ振興の核となる施設の整備に向けて取り組むことを表明した。また、地元3市市長からは連名で、基本構想策定に向けた要望書を、11月14日に都知事あてに提出した。

過去の経過をたどれば、地元3市にとって、調布飛行場を都営空港化するに当たって、5館構想に基づく施設整備が受け入れる条件の一つであり、東京都と地元3市の合意事項であったにもかかわらず、東京都の財政状況を理由に一方向的に凍結し、現在に至ったものである。

今回の都知事が地元3市から長年の要望を受け、施設整備に向け英断されたことは高く評価するものである。また、これらのスポーツ施設の整備や東京国体の開催などに向け、本市議会としても、東京都を初め関係機関等と積極的に連携、協力していく所存である。

しかしながら、過去にあったように施設整備が再び先送りされたり、整備する施設が基本計画の内容から大幅に後退することになっては、市民の理解は到底得られるものではない。

よって、本市議会は、東京都に対し、基本構想策定においては、地元3市の要望を十分に踏まえ、具体的な整備計画を早期に明らかにし、ともに、整備が着実になされるよう真摯に取り組むことを求めるものである。

上記、決議する。

平成20年12月22日

三 鷹 市 議 会